

## 第 35 回全国大学メンタルヘルス研究会を終えて

第 35 回全国大学メンタルヘルス研究会 大会長  
大阪教育大学保健センター 坂口守男

第 35 回全国大学メンタルヘルス研究会は大阪市天王寺区のホテルアウィーナ大阪を会場として 2013 年 12 月 5、6 日の両日に開催されました。全国大学保健管理研究集会から 3 週間しか経過していませんでしたのに、全国各地から 141 名の方々にご参加いただくことができました。皆様、本当にありがとうございました。またご講演、ご発表、司会の労をお取りいただきました先生方にも心から御礼申し上げます。

今回の研究会ではテーマを「キャンパスメンタルヘルス—その移ろいと移ろわぬもの—」とさせていただきます。学生のメンタルヘルスには時代の影響を受けて移ろうものがあるように思います。例えば、昨今の「自閉症スペクトラム障害」の増加の指摘や、「新型あるいは現代型うつ病」という形で表現されている若者の気分障害や、インターネット依存症などは時代の変化と無縁ではないように私には思われます。一方で、移ろうものの根底には決して移ろうことのないものもあるようにも思われます。例えば、「自殺」は今も昔も大きな問題ですが、障害の有無にかかわらず、「生きること」は若い人たちにとって永遠のテーマではないかと思えます。そうした問題も再認識しながら、これからのキャンパスメンタルヘルスのより良いあり方を模索する機会になればと思い、私はこの研究会を企画させていただきました。

プログラムの骨格は前回の北海道大学様のものをほぼ踏襲する形になりました。今回も初日の午前中には研究班発表をしていただきました。「大学院における休学・退学・留年学生に関する調査—平成 23 年度調査結果を中心に—」「うつ病の理解と対応の考え方—日本と中国における大学生の比較研究—」「大学生のインターネット・携帯電話利用に関する調査結果（第 8 報）」「大学における休学・退学・留年学生に関する調査—第 34 報」の 4 題が発表されました。

午後からは特別講演と教育講演を設定させていただきました。特別講演は大阪市立大学名誉教授の切池信夫先生に「大学生の摂食障害」と題してご講演賜りました。切池先生は大阪市大神経精神医学教室で長らく教鞭をおとりになられ、摂食障害の研究で殊に高名な先生でいらっしゃいます。講演内容は先生の大変豊富な臨床体験に基づかれたものでした。ユーモアたっぷりの先生の巧みな話術に思わず引き込まれた方も大勢いらっしゃったことかと存じます。教育講演は和歌山大学名誉教授の宮西照夫先生に「引きこもりと集団精神療法」と題してお願いいたしました。宮西先生は引きこもりの研究でよく知られ、またマヤ文明研究の第一人者でもいらっしゃいます。ご講演では先生が和歌山大学の保健管理セ

ンターで培われてきた引きこもり学生の経験と現在の臨床現場での取組み状況をお話しいただきました。心打たれる内容が多く、大変興味深いものであったと思います。

2日目の午前中には一般研究発表が行われました。6題の研究発表があり、いずれのご発表でも活発な討議が繰り広げられました。

午後からは「カウンセリングとサイコセラピー ―医療・教育・心理臨床をつなぐ保健センター・メンタルヘルス相談の役割とその設定」と題して、当センターの飛谷准教授によるワークショップがございました。ほぼ100名の方にご参加いただきました。当日は2人のカウンセラーと協力して事例提示を交えながらカウンセリングとサイコセラピーに関する研修が展開され、熱心な質疑応答がなされました。

懇親会は初日の夕食時に合わせて、会場の隣の間をお借りして行いました。63名の方が参加されました。アトラクションではメンバーがほぼ全員、本学の出身者で構成されているイーゼル芸術工房というジャムバンドの皆様に出演していただきました。飛谷准教授も親子で生演奏してくれました。それぞれの演奏の度に会場も大いに盛り上がり、楽しい懇親の場を提供できたのではないかと思います。

最後に会全体を振り返りますと、私ども大阪教育大学保健センターはスタッフも少なく、皆様を十分におもてなしすることはとてもできませんでした。至らぬことが多々ございました。それでも何とか無事にこの会を終えることができましたのは、一重に皆様方の温かいお力添えのお陰でございます。いつもの確にご指導いただきました杉田義郎全国大学メンタルヘルス研究会会長と清水幸登岡山大学准教授、細部に及ぶご助言を賜りました北海道大学のスタッフの皆様はじめ関係各位、並びにご参加いただきました皆様にはあらためて心から御礼申し上げます。